



小田原駅停車場（「小田原下郡絵葉書」より）

開業当初の小田原駅前の様子

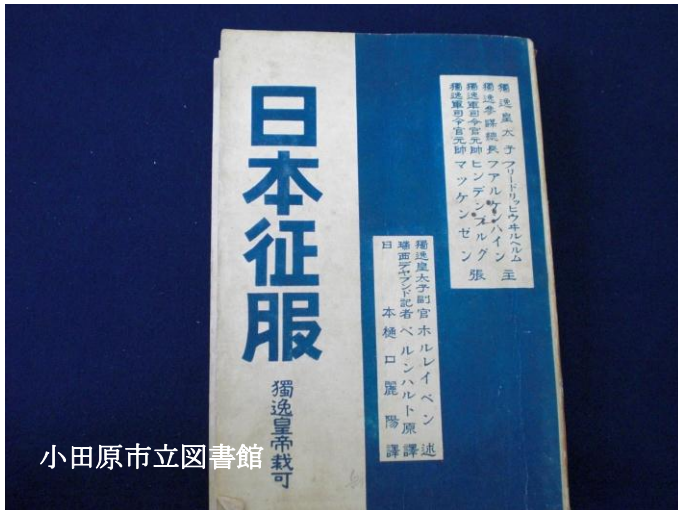
～図書館所蔵古写真から～

大正9年(1920)10月に小田原駅が開業しました。正面の塔がある建物が小田原駅です。右端のスタンプの文字は「陸軍特別大演習記念」と読めます。これは大正10年(1921)11月に行われた演習で、東西両軍のうちの、西軍の部隊が小田原に滞在しています。この絵葉書は演習に従軍した兵士に配られたものでしょうか。こうした状況から、この写真は開業から1年以内に撮影されたものであると分かります。

それでは、写真を右から見ていきましょう。写真右手には漬物屋「ちんりう」の塔のある建物が見えます。その前の柱には「幸町役場前道路」と記されています。大正時代には現在の市民会館の場所に町役場がありました。道の真ん中を走る軌道は小田原電気鉄道のもので、小田原駅開業に伴い、国府津から小田原に出発地点が変更されました。そして、道路の両端には電車・電灯用の電柱が並んでいます。

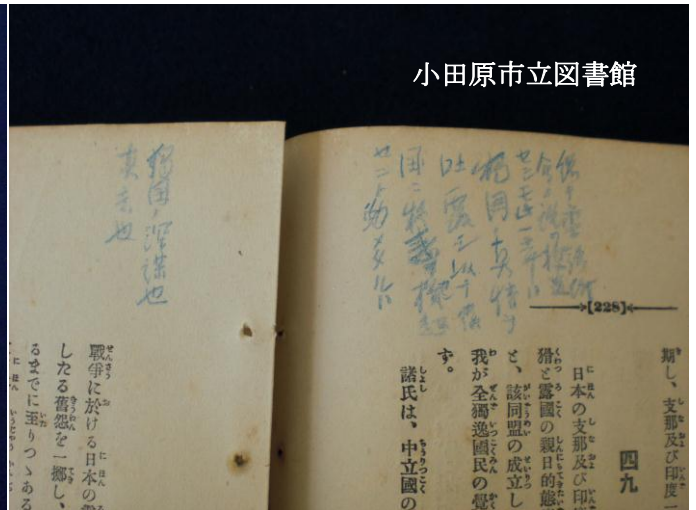
一方で、正面奥や写真右端には荷車が見えます。また左端のたすきがけの男性は、人力車の車夫でしょうか。こうした光景は大正時代の交通・運輸の状況を示しているといえます。

また、人々の服装は和・洋装が混じっています。たとえば、駅に向かう女性は着物に洋傘を差しています。そして、左端の「相模屋」という旅館の前には、大正時代にはまだ高価であった自転車が立てかけてあります。この1枚は大正時代の様子を表している興味深い写真といえるでしょう。



小田原市立図書館

表紙



小田原市立図書館

山県有朋直筆書き込み部分

ホルレイベン述 樋口麗陽訳「日本征服」(独立出版社、1916)

この資料は、明治の元勲山県有朋の旧蔵書の一冊です。政界を引退した山県は、晩年を小田原の板橋にあった、古稀庵(数え年70歳に際して建てられた為)で過ごしていました。政界の一線を退いたとはいえ、山県は政治への影響力を持っており、様々な人が山県のもとを訪れました。

大正11年(1922)に山県が亡くなると、彼の蔵書の大半は執事であった古口新吾に譲られました。その後、蔵書の一部が昭和13年(1938)に小田原町図書館(現市立図書館)に寄贈されました。

その蔵書の内容は大体明治初年から大正年間の刊行本です。山県本人による書入れや傍線、蔵書印などが存在する本もあります。これらの書き込みは山県のご自身の思想を読み解く上で、重要な鍵になるものです。

こうした書き込みのある図書群のなかでも、とりわけドイツ関係の書籍や中央大学教授であった政治学者稲田周之助の著書を熟読していたことが指摘されています。

大正時代は、海外では第一次世界大戦が起こり、国際情勢が大きく変化する時代でした。また国内では、大正デモクラシーなどに象徴されるように、民衆による政治参加がひろがり、これまでの国の形が大きく変化する時代でもありました。こうした時代の変化に対して、山県が本を通して知識を深め、さまざまな考えをめぐらしていたことが、この「山県公文庫」から読み取ることができます。

写真の部分は、ロシアと日本が同盟を結ぶことに、ドイツが危機感を持っているという内容の記述です。それに対してドイツの本音が出ているという旨の山県による書き込みが見られます。

小田原市立図書館地域資料室 利用案内

小田原市立図書館(星崎記念館)2F

年中無休(月一回の特別整理日、年末年始は除く)

資料の出納・ご相談は9時～12時、13時～16時45分に承ります

室内の資料は原則貸し出しできません

※ 本紙で紹介した資料は予約・申請の手続きをいただければ、ご覧いただけます

編集後記

現在、本紙のインターネット配信の準備を進めております。

バックナンバーもあわせてご覧いただけるよう、計画しております。